



もっと自由に、柔軟に。

オンライン留学の限界を超えるグローバル教育への挑戦



国際協働オンライン 学習プログラムで 世界とつながり プロジェクトに取り組む

私自身これまで長い間、学内外での国際交流プログラムの開発に携わってきました。ですから以前より、国際協働オンライン学習プログラムと称される「COLL(コイール) Collaborative Online International Learning」に関心を抱いていました。

もともとCOLLは、2004年に甲南大学とも縁のあるニューヨーク州立大学によって開発されました。この教育方法の最大の特長は、参加する学生たちが自国にいながらにして、海外大学の学生と直接的に深くつながり、協働して共通の課題解決をめざす密度の高いプロジェクト型の学修体験ができる点にあります。

ご承知のように、海外の経営学系の学部やビジネススクールでは、より実践的なスキルを修得するためにこうしたグループプロジェクトが授業の中心となっています。COLLは、語学習得の傾向が強い従来型のオンライン留学とは一線を画した、より実体験に近い留学機会となるように工夫されたプログラムです。

さらに、日本と海外の大学それぞれの教員が、テーマの決定や進行プロセスの検討などにおいて協力を重ねることで、将来的

に共同研究へと発展する学術面の可能性も秘めています。

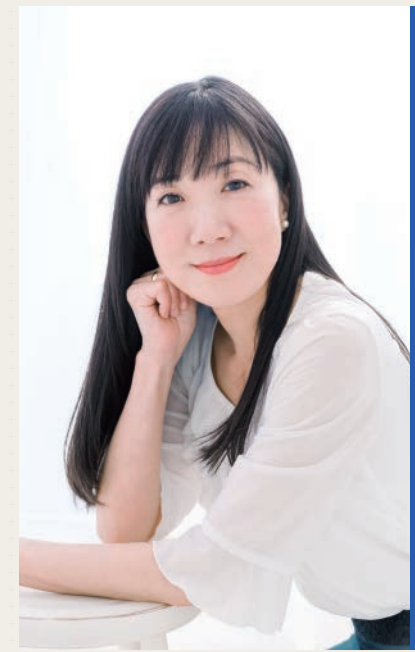
コロナ禍の2021年、アメリカ・ピッツバーグ大学との夏期エリリアスタディーズはオンラインのみとなりましたが、そこで初めてCOLLの導入を試みたところ、参加した学生や先方大学の関係者の方々から予想を超える反響をいただき、このプログラムの可能性に一層期待することができるようになったのです。

オンラインとリアルな留学の 自由な組み合わせで重層的な グローバル教育を実践

2022年は、前年の手応えをもとに、より深みと奥行きのある留学機会を提供するため、ピッツバーグ大学の教員、COLLのコースアドバイザーと協力し、発展型COLLプログラムを創りあげました。具体的には、ピッツバーグ大学との間で、7月から約2週間にわたり、オンラインで協働型学習をした後に、甲南大生が約10日間ピッツバーグ大学を訪問し、現地においてフィールドワークなど、実体験を積み重ねる機会を提供する計画を立てました。オンラインとリアルな留学を組み合わせられる点に、COLLの可能性がありますが、参加学生も十分に実感したように思います。今年のテーマは、昨今地球規模で語られる

新しい感染症は、私たちに新たな教育プログラムの開発や実践を促し続けています。甲南大学でも、感染予防に配慮した運営方法や設備の充実に努め、対面授業を実施すると同時に、オンライン教育プログラムの充実や精緻化に努め、コロナ禍3年目を迎える昨今、一定の成果をあげつつあります。他方で、学生たちにオンライン授業だけでは語れない大学教育を十全に提供できていないのも現実で、そこで欠落していることのひとつが、現実に即した実体験の集積ではないでしょうか。近時は行動制限が緩和され、キャンパスに賑わいが戻り、フィールドワークやグループ学習にも参加する学生も増えつつあります。

その反面、海外の国々で学び経験を積む留学については、現時点では完全回復の途上であり、甲南大学においても、オンラインを活用した留学プログラムの開発と対峙し続けています。こうした状況にあって、オンライン留学の限界を超えた、より自由で柔軟なグローバル教育を実践しようとチャレンジする山本シャリー特任講師の試みを紹介します。



全学共通教育センター
特任講師
やまもと
山本 シャリー

ハワイ大学マノア校東アジア言語・文学学科卒業。神戸大学大学院国際協力研究科博士課程前期課程修了。現在博士課程後期課程に進み研鑽に努める。学生たちとともに不要となったメガネを回収して世界へ届ける「甲南大学メガネリサイクルプロジェクト」にも携わる。一男二女の母。子育てに専念したころの経験が、学生の個性を尊重して伸ばす指導に生きている。趣味は、映画と音楽鑑賞。日々の疲れは、ドライブ中に思考を整理することでリセットしている。自然の景色を眺めて心と体を癒すことも。

日米学生がリアルに集結し ピッツバーグ市の 課題解決への提案

そしてプログラムの総仕上げに、ピッツバーグ市に向かいます。新型コロナウイルスの感染状況が比較的穏やかなタイミングに甲南大生は訪米。今度は、現地でピッツバーグ大生とともにゲストスピーカーによる講義を受講し、市下水道局や貧困層の健康向上に取り組む団体などでフィールドワークを体験します。そして今年度の目玉でもある、現地大学での共同ディスカッションの機会がやってきました。日米双方の学生が一つの教室で隣り合って神戸市とピッツバーグ市の現状や課題について議論を重ねます。最終日には、「ピッツバーグ市長が助けを求めている」という設定のもと、市長室のグリーンピッツバーグ委員会共同議長を招いたプレゼンテーションも行つことができました。現在、甲南大・米国ハワイ大・鹿児島大の3大学オンラインジョイントプログラムをはじめ、ピッツバーグ大との成果を勢いにCOLLによるプログラムは、学内において着実に浸透しつつあります。コロナ禍が終息した後もCOLLを活用し、学習効果の高い柔軟な留学スタイルを創造していきたいと考えています。次世代に必要な異文化理解と協働力を育むグローバル教育の今後、ご期待ください。